「終戦の詔勅」

朕、深く世界の大勢と帝國の現状とに鑑み、非常の措置を以て時局を収拾せんと欲し、茲に忠良なる爾臣民に告ぐ。

朕は帝國政府をして米英支蘇四國に対し、其の共同宣言を受諾する旨、通告せしめたり。抑々帝國臣民の康寧を図り、万邦共栄ノ楽しみを偕にするは皇祖皇宗の遺範にして、朕の拳々措かざる所、曩に米英二國に宣戦せる所以も、亦実に帝國の自存と東亜の安定とを庶幾するに出て、他國の主権を排し領土を侵すが如きは、固より朕が志にあらず。

然るに交戦已に四歳を閲し、朕が陸海将兵の勇戦、朕が百僚有司の励精、朕が一億衆庶の奉公、各々最善を尽くせる拘らず戦局必ずしも好転せず世界の大勢亦我に利あらず。しかしのみならず、敵は新に残虐なる爆弾を使用して頻に無辜を殺傷し惨害の及ぶ所真に測るべからざるに至る。

而も尚、交戦を継続せんか、終に我が民族の滅亡を招来するのみならず、延て人類の文明をも破却すべし。

斯の如くんば朕何を以てか億兆の赤子を保し、皇祖皇宗の神霊の謝せんや。

是れ朕が帝國政府をして、共同宣言に応ぜしむるに至れる所以なり。

朕は、帝國と共に終始東亜の解放に協力せる諸盟邦に対し遺憾の意を表せざるを得ず。帝國臣民にして戦陣に死し、職域に殉じ、非命に斃れたる者、及び其の遺族に想を致せば、五内為に裂く。

且つ戦傷を負い、災禍を蒙り、家業を失いたる者の厚生に至りては、朕の深く軫念する所なり。

惟うに、今後帝國の受くべき苦難は固より尋常にあらず、爾臣民の衷情も朕善く之を知る。

然れども朕は、時運の趨く所、堪え難きを堪え、忍び難きを忍び、以て万世の為に大平を開かんと欲す。

朕は茲に国体を護持し得て、忠良なる爾臣民の赤誠に信倚し、常に爾臣民と共に在り。若し夫れ情の激する所、濫りに事端を滋くし、或は同胞排傾し互に時局を乱り、為に大道を誤り、信義を世界に失うか如きは、朕最も之を戒む。

宜しく挙國一家、子孫相傳え、確く神州の不滅を信じ、任重くして道遠きを念い、総力を将来の建設に傾け、道義を篤くし、志操を鞏くし誓って国体の精華を発揚し、世界の進運に後れざらんことを期すべし。

爾臣民、其れ克く朕が意を体せよ。

送り仮名が原文は片仮名の様ですが読みにくいため仮名にし、また一部の漢字を当用漢字に変更しました。